

新撰元禄波集 下

和書門	
函	二八〇
架	二一七
冊	三六

内閣文庫	
和書	二八〇
架	三〇
冊	二二

56

内閣文庫	
番號	和 18280
冊數	3 ( 3 )
函號	202 214

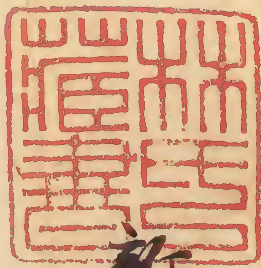


綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり









新撰卷以波集卷第十

霧後連歌上

浅草文庫

ふ紗おのくもあしそめぬ

前園白道傳

と息をく後よ月女也歌及く

いとく列そあさうお

御製

後乃石花と柳よ月

初められりむを乃月末

前大信と平の意









は眼書

初よりとゆれはとらとらとらとら  
くくくや様よくくくくくく

源泰仲初

のくくくくくくくくくく

文明丁未年四月廿五日

あくゆくくくくくくくく

梅らるる

前大御之親

わりの長きれ日くくくく

前園白近未あたる長くくと

あくひくくくくくくく

くくくとくくくと名つけゆく

御製

一返もくくくくくくく

初くくくくくくくくく

あたるくくくくくくく

時くくくくくくくく

前大御之親

秋さむくくくくくくく



後より一古くんとしり言ふ

宗御法師

山海ハ云々方々有りともりんれ

定月書れまより男ハ

宗伴法師

祇、里も及しぬる社と越伝く

甲りハ方々ハにうた振方元

源威卿

あし甲し書いりりありら山

文蔵時の落とぬみみひく

源実隆

あはし方々ありら山

後ハ云々ハにうた振方元

源実隆

宿と云々ハにうた振方元

祇免ハ方々ありら山

宗伴法師

甲し書れまより男ハ

日し方々ありら山

宗伴法師



わき入さしにありまみ山家  
まうれつらんあ

源安書

梅もさしつらとよ(山家)  
中くよさるんれあやま

宗雄法師

ねの火もくくた山みら  
うあもさるんわあ

惟宗氏法

山人のあさすうう接方くれ

接方—あまハ誰と頼ん

宗孝法師

りあまたらあのかま日暮く  
あともさるんああ

日暮法師

あまく海山の里—りあま  
あまら里とくま—りあ

あまら里とくま—りあ

あまら里とくま—りあ

あまら里とくま—りあ



よみ人あはれ

秋の水きれきり山は後新し  
古々松葉のあやさうし  
法橋意載

後ひれ山も秋のころを  
あぐりれ河す秋のよみく

宗伴法師

後ひより紅葉れ山乃打時ぬ  
うきくともり行く山の秋

宗敏法師

すうれ新と相の月れ永世ふ  
河ととさうく月あらまじ山

青栢法師

雲うみもさゆぬ岸は後ので  
舟のうれはや難波たりり

荻原利徳

仔細山うりれいんぬ海もはし  
あな徳ぬ袖うすきあは後をやと

権右衛門左衛門

あやうとさうの座乃山うり



松の心又抱あやしむすいまり  
式乃る貞孝親と

あして是れぬさあ乃の中一山  
おちあふく玉わりしあひ思ふ

道元法師

夏ハ初りのきさあ乃の中一山  
さあやとれた夏れ而新中くみ

法眼寺

かり福くや——きさあ乃の中  
こりりもこりりもねら夏う

智恵法師

ふりの山道一りしあ一山  
うつとりのもたう夏中

法眼寺

初出くく東橋のたりの心  
いれりくすににうさうん

松久法師の歌

秋さあますうれあはれ後の音  
のあしあうね用いすきあ

法眼寺



りりうしれ虎も位ん手籠きて  
よさうたきねくすれうぬゆ

法師考歌

浪の房れりりその濱所いさく景  
おわうまはらよぬりいみ

宗祇法師

あしうらた冥よ糸縁のちしうか  
わらわ河方水うみうわら

徳河法師

張人の冥れしうらよ約つまて

おまてゆくまの力たあお抗

はなまかふ茶室高き下

わうたるうしうたうれら

おりし中とけさけぬるう林

光胤法師

又まぬおわたりせよ張れお

夜の信もしあせしおれし

宗御法師

あすあしぬんよ宮りぬれ着

つうくれ張んゆく末



松平信純の致

寄出はみわ時由んを申し

言宣は所

一おろしをわす接ね

深高純

接のすり少なれし

丹治中泰

藤原やみは秋風のうらみに  
みはるるとき水れまじき

友原忠信

接人のちのまり月み残りうて  
まじはるねむれみち

は眼吉丸

昔の北後れあま目そ急く  
接をやりくうたまひ

多良良政弘

つゆもさめぬうれ宿み福く



これより後より延治より

字御法師

里方よりしきりぬれりしり  
と藤よかりのりしりしり

大正重底

と長持これおきく出のり  
かりしりしりしりしり

法師寺

里人よりしりしりしりしり  
後めしりしりしりしり

字御法師

羽衣よりしりしりしりしり

古よりしりしりしりしり

字御法師

とに根しりしりしりしり  
ありしりしりしりしり

字御法師

行とくとしりしりしりしり  
後よりしりしりしりしり

字御法師



申すつゝ是ヲましましんすり孝抗  
墓うたむは堅くもいと

頃一位教忠

孝抗其の一物もくした物を  
後之穴とく宿もより

右侍の繪巻

孝抗露の液やねとすし  
池又写指のしは若みさ

後大信の敬

後之うねきをれんは

む井此月ハつるもりし

前冥白

露くれ糸の抱く来らるる  
月うたよんやねきてむら

津製

いりき燈の露とわくく孝抗  
知ととも月もくさるよ

菅原為家

秋用せんさよりしるる  
秋のいくあうこのそは元



後一位雅行

古くはるるや 夏初も夜あきて  
あつた世に 明月のやとみく

宇御法師

後〇れ着るや 子とさゆなり  
るゝあゝあ け音れさむけさ

は橋並哉

そことれく 曉月よ 宿りて  
あのみや いらつく ぬとむせ

梅家後後重

月乃まらゝの 燈山とも好

く ぬたふらるる けしき

三お親王

心ゆく ぬたふらるる 月乃まらゝ  
ぬたふらるる 月乃まらゝ

後もや ぬたふらるる 又 秋の月

西新と ぬたふらるる 月乃まらゝ

那 諫上人

月乃まらゝ 宿はとらぬとわらぬ  
く ぬたふらるる 月乃まらゝ



慈照院の御書

後人の後世の月女弱せり  
〜ひもあ〜ぬ袖井上あ

多良持世朝臣

月夜やと夢あし抱よあし  
朝の山反りしとす山

智彦法師

月かろき夢れ抱よ長き  
か念りて尺ツや長力古郷

法眼寺

涙あやらゆら月夜の後

静よ〜らよりあつ山寺

多良政江朝臣

月よ月秋の後人やと  
〜のさおりのあつつきれ

宗物法師

うた身知も秋女道連秋の月  
秋すま〜れ後力〜

智彦法師

古くは我ま〜月やあ〜ん



そとふらうきんばりし接人

植大信知の教

あつ川や実務は月とあよそ

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

新撰菴以波集卷十二

霧後まき下

けさのゆりあさる月

は成事と余言を下

ゆめやの弱もいそくら下

ふゆいりあをまきつ振のた

三系親と

あふはあそもあふりた

ふゆいりあをまきつ振のた

沖野



のるわ、ちかよれなる  
あーまらるるよこり  
ちかあちかあ、あまなる  
あうあまあ、あまなる  
三品親王  
一巻の巻よ、あまなる  
あまなる、あまなる  
源尚純  
あまなる、あまなる  
あまなる、あまなる

能河法師

あまなる、あまなる  
あまなる、あまなる

宗師法師

あまなる、あまなる  
あまなる、あまなる

法師

あまなる、あまなる  
あまなる、あまなる



ふりーいーくわー 宿の杉風

宗祇法師

あまのうらやまやうとととらるる  
うほゆるるよとととととととととと

玄宣法師

まぢぢふふーのれあふふふて  
のらりあれ月日つくみあふ

ちぬちぬ

あまのうらやまやうとととらるる  
うほゆるるよとととととととととと

式部卿の教

いけりねあまのうらやまやうとととらるる  
うほゆるるよとととととととととと

宗祇法師

あまのうらやまやうとととらるる  
うほゆるるよとととととととととと

宗祇法師

あまのうらやまやうとととらるる  
うほゆるるよとととととととととと

式部卿の教



張ゆる人のとんばきおなけ  
ほかぬ行なれしを流りの衆  
板大信如の教

やとみし道とつく接人  
あまの衣阿さまきまとうな  
式乃貞常親王

とけ乃小芝のまきそ乃接人  
結成のうらくやうけ  
之宗親王

おもしろ思れしけなぬもじ

いく実そしひとばさわのりち  
後宗光法師

うま接し留ちやんば有し  
同防よゆし時百豹のまあよ  
らとまらば野山うりうり  
入る前ちるれ

張師もやとね福のまを  
らとめくともぬまはらさ  
其に改弘朝臣

まさりれたよりうけし接れた







香うじ約れわーいさ乃乃山  
しんくくすくすく人の心とく

宗柳法師

後乃香れり約りくひなれて  
のくすくすくすくすくすく

源政宣

後乃くすくすくすくすくすく  
くすくすくすくすくすくすく

宗柳法師

後人の朝川くすくすくすくすく

い河くすくすくすくすくすく

源政宣

後乃くすくすくすくすくすく

浦乃くすくすくすくすくすく

前乃信心義運

後乃くすくすくすくすくすく

後乃くすくすくすくすくすく

宗柳法師

いさ乃くすくすくすくすくすく

7日くすくすくすくすくすく



修拓法師

月まの信よとまうれくま  
この浦らうくわく都へ

枝中卿之言也

あちや月よあしむらう毎  
あしぬうらせう袖にま

法橋義成

あちや私河風ひそくたあま  
あしよまきくまのうし

智恵法師

松原よりわたり成れあう  
あしあまのこしとあま

松原光持

あし浦よりうらもあま  
あしあま月れいそく

あま良政江朝臣

あまあまのうらあま  
あしあまあまあま

常徳院信光

あまあまあまあま



新もあつらわれめわの月  
入道前たる花

又やうん海よりふらぐあれ上  
せくく猿のほくさばじら

宗御法師

又こしんららの音よ舟とあぐ  
月あり居れ来やあけわの

法眼紹永

ひみよらぬ山山りよまはれ入  
あゆ一れ月のすんまうまえ

法眼泰徳

らぬ舟あさす波のきりまや  
朔方くれのころあけあけ

宗御法師

秋をくに清うた出りあえして  
月たさるあよいつかたひん

源繁世

きよした江の蓋れわのふ舟えして  
あふも神はくはさるれり

宗御法師







忠樞法師

海一舟のりよ徳を引とて  
くろきあはけをりくも利

法眼光

わさうすろ朝夕舟の徳を  
たきくろおのあまら山陰

宗信法師

朝夕舟のりよ徳を引とて  
くろきあはけをりくも利

宗祇法師

わさうすろ朝夕舟の徳を  
たきくろおのあまら山陰

融河法師

夕舟舟のりよ徳を引とて  
くろきあはけをりくも利

参議重信

夕舟舟のりよ徳を引とて  
くろきあはけをりくも利

宗祐法師

夕舟舟のりよ徳を引とて  
くろきあはけをりくも利



くやくのこゝろはなほしあつて  
は服也

ワラビとせん何者たうよもの  
月乃そももかろくや張持元

友原文躬

りあまー母はらの湯も  
よくもとと知き社乃幸す

宗御法師

ふんしぬりあろー母のわくの  
かりーももてぬとのふれと

あつては家の接のやまこゝろ  
いさくこゝろとほれく古と

智徳法師

仲はま元まわろくとなる  
あまくれつら山みちらた

宗雄法師

あつてはかろくまのき孫の  
いさくこゝろと長秋の

松律神澄流

あつてはかろくぬ接のあつに



又あつては猿のうらさ

は栲道哉

かつてはまきとねつらふ

栲大信助の教

海りあはちやう 宿と小猿まをる

智恵法師

あつてはまきとねつらふ



新撰卷以彼集卷第十三

新連奇一

海も彼をこころいひつら

ほし原入る前なるは

去るぬ方よると年たしぬん

あつふもさるたあけりの心

沖製

去きわとちりぬかやうしん

美のしうさよ年やこしぬり

前なるは

きげハとお少なるあき相州

らきつら去れぬもけしじ

板大信知の教

ああぬ智張くひまそ方おそ

しあつらつれあつらじ

宗師法師

あつらつらふら去つた志のそ

文明十八年三月廿五日書

あつら百物の連年よ

福れあふ系ういくあつら



舟中御書

この路の書は、いふに、日交をてして  
白ひしとくさくさけりて、いふに、

能阿法師

新く、白ひの舟の、日交をてして、  
わく、白ひとくさくさけりて、いふに、

信長法師

きり、白ひの舟の、日交をてして、  
わく、白ひとくさくさけりて、いふに、

宗純法師

わく、白ひの舟の、日交をてして、  
わく、白ひとくさくさけりて、いふに、

宗純法師

わく、白ひの舟の、日交をてして、  
わく、白ひとくさくさけりて、いふに、

宗純法師

わく、白ひの舟の、日交をてして、  
わく、白ひとくさくさけりて、いふに、

宗純法師

わく、白ひの舟の、日交をてして、  
わく、白ひとくさくさけりて、いふに、



病のくちやーとちかてめはこす

は眼さる

かゝらの音もあはれゆゑのサナシ

まじふよとちかてめはこす

宗元は所

らばくちよれはれぬれこす

たかちくもてはれぬれぬれ

智恵は所

かすじくもーんまのうすこ

ちかふとちかちかちかのうす

園白をる

ちかちかぬちかちかぬちかちか

ちかちかぬちかちかぬちかちか

こおおと

ちかちかぬちかちかぬちかちか

ちかちかぬちかちかぬちかちか

枝大酒を立派

ちかちかぬちかちかぬちかちか

ちかちかぬちかちかぬちかちか

能阿は所



月々雪音のうらひとらお出で  
こころあつくれうき音のうら  
省柏法師

ゆきあつくりあふむけふのあま  
そのうらつくれあつたあ人  
安伴法師

きりきりあつたあつたあつたあ  
茶園白とあ家あて百約のああ  
あはあああああああああ  
友原七春

あつたあつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあつたあ



花のわみや水白し

宗般法師

玉清や河舟ゆく梅さなく

馬く香もやとを此のすく

宗孝法師

きき柳やうくふりて

むまそいゆ、ぬら河よと木新

法持きん

うまふの香いにふく月氣

香くさくうらさかさわうき

枝大信知の教

かすむく北のちさなは九月

たさひーさはあまはる

舞良政弘朝臣

ゆはもつさうね新めぬおらく

あまてつー和漢もあれ中

かりひうせはやとれたせ中

前宮白き葉

うさふもよあうなとたのまや

をめはのられきもたのま



入道前在左

あはゆくほねりいひとせえ  
家もて百額のまね  
あはゆくもあはゆく

言白ちち

らりちちいちちいちちいちち  
あはゆくあはゆく

御製

あはゆくあはゆくあはゆく  
あはゆくあはゆくあはゆく

あはゆくあはゆくあはゆく

あはゆくあはゆくあはゆく

ちち

あはゆくあはゆくあはゆく

あはゆくあはゆくあはゆく

あはゆく

あはゆくあはゆくあはゆく

あはゆくあはゆくあはゆく

あはゆく

あはゆくあはゆくあはゆく



あはれらのこり梅もれけ

法橋道哉

海山らのちのれ海雲と起よえ  
後しくふんまみあらしん

法持念

人あれぬ音れりりよま起  
とぬりそおほきお飯方実  
よみかあしん

くろぬら梅産れくろし梅り  
ふのうみよやとくひうゆ

宗長法師

一のしと目と着わくく起見て  
こそりわー山雲うよと起え

大い重廣

おわて花もはくろぬあや  
うりこまて起るや起と起し  
うこく起し

と葉とくくけ起乃つ起はと  
いそ起り起起うれこり起

法眼証承



花よりよしのついでにのよきこと  
は方よめいかに世もやまし

友原忠房

舟人の帆より御方よきこと  
世もよぬぬれつられうらま

意木田守景

月みらるる人の花よりよき  
るいんら妙くもよきよき

宗世法師

花よりよきのうたよりやきり

きさうれあこれきこころや

能阿法師

花よりよきのうたよりやきり  
とつれん物うらけのよき

源後三位教弘

花よりよきのうたよりやきり  
よすあも人れこころをたひ

源秀海

昔昔よの切なまらねく  
ゆきまわつて返りくよ



忠信法師

うう一人自りもは愛するわ  
わしうまうとありあやうせ

智信法師

いけまてそ我の末乃世のま  
あまういさたふみあま

友原利徳

た尺女とゆけい山月ううわ  
ういばそいぬういういあう

友原武貞

わう知一じ世とや何もさあん  
うれとあうあよあうあやえん

玄信法師

西教の世よと世とよふ山むわし  
うかういあうあうあうあ

よもあうい

嘆もむらりあ誰あそいそくらむ  
あさあそ宿よのうわんたの風

友原元祝

たしそあうめういあうい



夕暮さひーひくくうさ

友原徳秀

きつりのあきれきせ風吹く  
切れはひひくすはきや道ん

宗伴法師

ききあたしーわつらりつと  
りれも切さくふらりけはし

智宗法師

きはらやあはわつあはきせ  
あひつりけーや我もとら

友原基去勢

人さきわらわられとら  
あももそくぬきれわさ

三品親王

月よけきよのあはわら山ん  
向ひなり山の嶽をひく

式部卿

まはわらうまえよしゆのあ  
我らよとそとわきん

宗伴法師



きりぎりすの山は乃きれ  
柳ささくれしきさる  
平章棟

きりぎりすの山は乃きれ  
海との多し川たのまん

法眼寺

昔深よちめとわさよれ衣人  
春のこころれう花よりうた

法下公意

ふのこれうつうかろく友のま

いまつけあね小車れうす

吾官法師

ふよろしやあれをれまう  
ひーおんそ袖ろまう

法橋道哉

乃もつれぬすしんはるり神奈  
雲のたをよりりしこりあ

宗師法師

枯あさくわ川さる力里  
うたあつらちそりせしまた



宗長法師

時ををその森よますす  
乃茲秋よすす人れ振舞  
法服寺吼

小山田よさすとりう母りきて  
あつとやさても法のとより

冥白右左長

うふともスーは世そらふ  
りり白もさばき雲れ涼しと

慈照院住持右左長下

夕暮は月まのいよのまのや  
むらり波ようけてあくあひ

神益政

あひもれりふ信出りそふ堂  
やまよりさかののやとこりこむ

よみの人あつれ

涼しくも村ぬもれくあひ  
あひのいれり皆乃音に

茶中酒を云友

穴蟬のち山くられよ秋とらて



つとよ、神の病れあはむ

あまの政にあら

世のうねりよふらととらぬれ

りーのあまよきはさきぬりま

源氏三位教弘

我もるぬ秋のころりせとねて

うちぬりやとの秋よるまら

法橋寛珠

早合とつしぬ月のころり

せつたれあは後乃秋の

智徳法師

りふよてぬ垣保のうらた

ツ着のまよとらひよ男と伝

源政宣

病よまぬもるぬ秋の

ありり考もそいあぬ病の

徳阿法師

心よさけ毒れ陰る秋の

あまのころりあまの

あまの



月をみよふ難の切な虫の鳴く  
ありたに秋のしづ 秋のうき  
宗祇法師

下葉らり梢の月をみよふ  
ありたに秋のしづ 秋のうき  
宗祇法師

下葉らり柳や秋のしづ  
三のさういよいよまをす月より  
あしりの月をみよふ 秋のうき  
とくぬやとわたりてあきのうき

夏原うらな

しづぬれをみよふ 月をみよふ  
丹波海やけの信れすえん  
秋のしづ

月まらりつしづぬれ  
きしづぬれ 秋のしづ  
其阿法師

少室山秋のしづぬれ  
口裏より三代集作者と  
下葉らり 秋のしづ



つられぬりりり乃山風

冬後基巻

すこ昇とひの終よ月おそ

管乃あうろう神女あひあき

法下行脚

物とあうやうおれ秋は月

里れとあきよりのそす先

玄宣法師

行風よおさの月と出れんく

音れとあき乃風あうあう

冬良持世おれ

藤の葉れくに新くまね月のま

朝よおれをさうのたの秋を

よとくあうれ

ひの雲のけりる月とあひあて

なるまゝの利しやうすくしあ

宗如法師

山のともれハ月とあうあ

夕夜あうあまのトみら

法下行脚



采の産よ暮らぬ月わうつは  
のかりきいをりし秋  
純河法師

よれくのちよけゆく月と  
雪丹れりくかりたす  
は服吉氏

又よ夜の月いある秋すこ  
萩うく月よ秋のあ  
宗也法師

夜暮ぬ月れる秋やほりん

里なきらぶりくはせ  
宗也法師

すこらるるあもちくぬ月りて  
静かのちるるす音乃山

他河上人

くのれあはあくもしきるはる  
うのちるる秋るるれや

宗実白を兼

ちるひるるつと月いよしき  
差いすしりあはぬかして



三品親王

又ふれは秋もる月もかのみめて  
志のりもさうしと袖もさく夜

後花園院御製

秋のそり我せもあつる月越えて

白紙の人の秋もさうし

三品入彦守

おの月山のそちうきわらよとて

もらすれ上は秋もさうし

多良良政

人の世れにさうしよとて月とて

られりしゆとさうし

宗御法師

かふれ月昔の人の世の秋

燈のさうしれ乃とてさうし

三品親王

鴨のさうし秋れはさうし

かふれとて秋もさうし

多良良政

さうし秋のそり秋もさうし



松よりぬく世にうておはる

宗師は所

うき秋風乃てうれたる

夕暮乃てあけし朝もくは

友原能秀

松よりまゐる秋風うき

あつた地すりりうき

源盛卿

あつたのみうきれは秋のき

あつたあつたあつたあつた

紀光に

何ゆきのはくことあつた秋は元

おいはあつた月もくは

宗師は所

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

智富は所

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

は眼を



よつみのときをたれかたつたれ  
まづれり認めりあはれすこと  
き海は所

りみち比りくたれ山川  
福さめつて海さめつて神の上

権左衛門目子

わがせとたれあなをこころ  
海さめや里にあらはれよ

智恵法師

みれうきあしとらな時あう  
あしとらな時あう

源政卿相長

飛々心も葉うらりよ葉れは  
月さしとらなとらな

権左衛門目子

霧こほり神のかりとらなあめ  
うらりよとらなとらな

河のたれ葉のかりとらな  
雲のたれ葉のかりとらな

宗右法師

あしとらなとらなとらな



ちりし時を乃云う晴る風  
は眼を叩

竊さしと未だ智の山を登りて  
うつと火を眺めゆく我れも

後人あり

産りてありけり衆のよりの雪  
崩れゆく雪はありと云々

根ち細く雲霞

西にけりも、雪のよき山  
さゆりおれ月丸上よ歌ありて

は眼福縁

音らりまよふ山に皆去す  
ふまきしとありては歌ありて

は橋を飛

音のありしものありけり  
作乃葉よ空の歌を打ちて

根人信如秀歌

福ぬありしは歌の下の



新撰志玖波集卷第十

雜二

千句の力を寄れ申す

清とや浪のうへにありし由

宗伴法師

まゆのこもたすひくふの雲石也

うらみしつと波にさくさくも

入道お右左衛門

山も移くりそ雲をまよふ金れ

書こふ鹿のこゑうたのり

行方法師

さゆやねしり瓦上の月ぞらて

あふりしひさき神のまき世

宗叔法師

わとつ帆交ふのうやねねん

おとくみゆまにあらやうねん

宗輔法師

つうしりの少僧のうたはまき

あふよとなく海舟のうたはまき

源公尊



雲のしるしとよれうり山も心持  
ヲ立は度とのうしと神も  
後人あか

あはれみの山れよその志し雲  
あつりすもかくすもはたかす

多良政弘物長

雲よりうりよたかもあつりえ  
西新と馬ねまにうさひま

法眼寺

人のえつりうりたわりの程

文明丁三年九月十三夜日表

めで百額まことあよ

雲知も山もはくりてうみれ

桑後春徳

雲よりとてまき根のうりうれ

同十四年十一月廿六日のまきあま

りるれをあもかよまあめ

沖敷

うりうりなり山はうり一の程

月と雲の山はあまにうりあ



行方御所宣流

ひふふふりよをたし一の標  
とてゆくその方山方ふく雪

息後法師

初まそ西穀つねくあ一のけ  
うさは日こよまうさるせ中

能阿法師

い流けて忘あまうねん者物ふ  
崩ろんらうまねれうまき雲

おんちん

のころ日一あかり山のあつらぬ  
かきく地んゆり業いこつら

慈照院を修むる

山れふのとのらまきあすうあそ  
大井よれらり里れまひり

冬後基安

山の名れあし一月よあすすえ  
らよまひりま後の一しを

法師寺

かしあやまのけりあつら



人かひりのとれもろし

後人少知

ありしをいふるはむかし

後うけつゝいふはむかし

とみ教王

老うねれとむかし

そのれのおくよむかし

極る信然心教

夕日の下れ水も一す

ありとの元よむかし

青柏法師

いふ目れむかし

たぐ一りのねくもむかし

御教

かゝるむかし

そゝるむかし

夫も後主信

ねもむかし

かゝるむかし

家長法師



いさすむ海ぬらいつらぬるもれ  
らいつらぬるもれ  
はす云津

言ふよりを勝かきく東の船く  
ひとりき寄れ中よ  
枝うつす柳と風乃吹きけそ

枝ち細く実陸

ふれふりあとりつらあつら  
夏のすもふはたあの人

大信於意運

かりぬる舟よりぬるもれ  
あつらあつらとららの山松風

有原白紙

わすすよふの秋乃つらるる  
舟あつらあつらとららの山松風

有原白紙

きかき仲も秋乃浪ぬる  
わくすすまきせしあつら

有原白紙

よきいふはりよとらあつら



天明四年六月三日  
はなはしくおひとくともあま  
つら母のうすすもくもくゆきほるのふ

沖製

みわわーりきーわーり村さ(はりり  
まこまーぬみやめいふれははれま

根ち細き実陸

つれりのーりるはりりあ  
すくろそあーまーあーのーつ

根ち倍ぬの敷

母にさるよまろく梅のうも  
あのをれれやれとぬらん  
いさり大れわすあつはれえま  
ろーりまきししすまそらまき

はなとる海

わらぬほのいさり大をく種なり  
あつて母しそろしぬほのえ

はなとる海

つれれあうまのいさり大



らありていりあり

檀大僧都心教

衆をくれ約れ火とり寸浪の上  
せとれよりととく寸海去れ子

智應法師

大海のとるき隠干にわたりて  
松とよりよりよわゆるうらま  
栲とやあつれらるめとわがせ  
いりよりむのみきうとなすむ

真良政弘初尼

難波はのひーと氏やちのん  
うーありれゆるすもいんあれよ

玄澄法師

いまけらや何々難波れ文らん  
慈照院へ道徳をゆらたあめく  
百額のまきあり

んきりらんーやーあてのあも

宗祇法師

くらのからねう道徳あまえく  
袖と人ねりみりーらのほり



家御法師

いみじくの文れうち野の原とて  
ひらきとも明しうさね枯れよ

は椿巻

あめの桑さみしう浪れ古交

きこしうりみるまきうてつ  
あま

源尚純

いふのうねりうさみかや

又ゆすち年二月家めて一おの

き高よちげりうらうらとて

あうき

慈照院を遊ばむ

又井河うはよりそきの里ありて

夕うれい月れ交うあかりて

能阿法師

あときしうのうら若あもん

あのみとりうもあはさうりの程

家御法師

小ねきんおのりおの葉かくも

ふ入山や行くよかり向く春

枝ち細て宣胤



朝しつりまのよと里れあみあま  
かすもさひく言たうらふ

三井親王

里をまきくつりのうらひすこもせ  
ようふふりりまう袖のあう

妙心寺おぼるをた

古々のよりのまうにうらうら  
わかれのさうやうらうら

宗祇法師

わらうまうまうとくつりまうけ

ゆりこまうりそく振人

深光法師

秋とてあいとらつちまあうり  
糖りやあすんあうらうら

菟原徳正

古々んとまうりこまうや  
わさのこまうらうら

法橋寺ね

古つなとひうくさめよねれうせ  
又ぬ十八年十一月すめ白うらは



のりーとわらふときてゆー  
百顔もすのよ

われてあめーじあもん衣を

按察使後量

ういしうくうりまひーぬれ着

後ううてーそあさひーあれ

妙也あま白左を凡

いひけいそのまきくねくう方ぬみ

いふはの用方とそそあひま

権大僧都の敬

うらぬれあーのまうりやんたとん

かの又つきぬらあーたつ極

二あはは師

それとあもた精あううあれんよ

うらあうひれはこふくれはじ

宗祇法師

飛々すじあよりーまきのあれ居

せあーれあよーうあまてうあし

宗物法師

すさあーあまのあーあーの



わんごきりやうじんれら  
権左衛門の殿

らまよかろよくら木の一  
おりのいふじうたせぬあり  
左衛門の殿

かられりびのうらまゝとめら  
はともきたたのぬまの衣り  
冬候時記

伝ふらんこと御り山の行く  
いふもいふもいふもいふも

冬候時記

長いたよりけりけりけり  
かひともや一ももももも  
権左衛門の殿

すももももももももももも  
あつうももももももももも  
宗右衛門の殿

あつうももももももももも  
あつうももももももももも  
あつうももももももももも



青栢法師

たうたけいひるいしん  
かり田れゆとたるん

法印行助

山後みんもねりぬ水落る  
着みぬほくさぬさのつこら

春後基徳

ろくとろいおひりれひひりよ  
らととあふれまことつりし

多良良政弘おん

わりさひいさよ雅みゆらん

法橋益哉

あしんくほへくもねさ業おん  
うげよるいそし神りあふん

前大信正るゑ

信知てらひの秋ちりあひん  
うけいさひさうくよらりねま

大政おん

ふらふらふらよねり業乃ん  
ふのこしあてらひすま



松尾の通

わくらやといふりての松の春  
すはらうまねといひもくあそ

宋唯法師

ふ人のつりも松の春に  
春をしのぎの松に月たて

法眼寺

春れあじのしりふ松の春  
朔夜明るのしりてあの日

源宣胤

松の春もあつて松の春  
松の春もあつて松の春

小笠原素盛

松の春もあつて松の春  
松の春もあつて松の春

玄宣法師

松の春もあつて松の春  
松の春もあつて松の春

前大僧正道真

松の春もあつて松の春  
松の春もあつて松の春



とらふよんおれとまくらん

松尾信純の教

指さすめはと海つこふらふめ

ありと申とも控やわぬん

は眼きん

ふもたぬこととんてんもふ

まのむらゆるとふらふらふ

ほふ島

ふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふ

松尾信純の宣紙

ふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふ

は松きん

おふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふ

松尾信純の宣紙

ふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふ

松尾信純の宣紙



従うく尋は山の行くしり  
ありさと人と神しありき  
宗師は師  
おしりしとまかよりそ山の行く  
ゆく海きるとしへ便めて  
行人信教の教  
大のし息すりありか乃山成と

新撰表紙は集巻第十五  
新連奇三

おとろくれぬり庭たふり路  
よみか人あはれ  
川の石もうへく指のありぬん  
あれ百額のま歌り  
いよもくも老ろわりり好く  
うらりへいぬしき地りそらるぬ  
おとろく人もまられたせ中  
あめらに改江胡也



あつらひにけしきくもれよよと  
後しりるめりあつらひのあつ

友原元親

うへせはちのちのちのちのち  
物ともあつぬはせとちりあつ

早京盛

くらあま切はたのじとちれき  
よおめはちあまあつせとちき

法眼考

新しりたりのちあつらひ

うれもやのれかすちり

宗物法

用さちくちりとの一まひ  
時あもちちあつらひ

法眼証

ひらりあつらひのあつらひ

あつらひのあつらひのあつらひ  
あつらひのあつらひのあつらひ

あつらひのあつらひのあつらひ  
あつらひのあつらひのあつらひ

あつらひのあつらひのあつらひ  
あつらひのあつらひのあつらひ



松の御之御量

わつれと飛々いりりあか松  
村ぬれうりくろかひ涼くそ

沖製

うづれひらあよ用わらふとと

文昭十あ年四月由表あて

百額のもきり

かろうたあふとちれはいつ

慈照院合宿あ改ちん

せいらくは松のくらんとのまらて

す忽しと細くぬわらあこれ

美白石ちん

あよまきそいあ葉はるるとりす

時のうりやあふあかあ

は栲あ改

花ういあ葉るうりあ新田川

一年ああいああそとあ

源高純

りみちあわああああああ

あああああああああああ



智彦法師

ふれちりりよまより常盤木

まろちりぬま山は行くともあて

後人あふ

日本より庭にたき言乃久

たれぬまは口の似ぬまふら

あはぬま

じり家まらにるまき吳竹

ぬまやうらんしく用のこゑ

権大信忍の歌

まろいく田中たけなま鳩鳴く

黙しゑ、け時あけを

宗伴法師

ふれまろりや桐よすじろ

あせしり他よぬまららる

宗伴法師

けならぬまのまれけよ用立て

いそこのちりりちきれ明あめ

宗伴法師

いそりぬま鷲の飯らやまじ



ふけりるわも乃川へ給

智彦法師

鶴のうれ橋りのあみおりて

乃越馬や恋れもつり

お友ちん

飛そともちるはちる電の電も

句うらなつしるも物ほり

去と秋と越橋乃りわ

案と冬のねも一

御製

めらと越まらぬのま妙よら

三のさういハちよ目のま

檀の酒を教具

菊日と昔りの家とるほ

案くらのさや乃一し

宗長法師

去のま牛川へ風燈ハ書

乃つりそのりり行くのま

宗伴法師

案乃ひりる書井ハととせ



ちくぬさくろいかわくくふの人

宗祇法師

虎のふとらぶらうせむらうらむ

もさうふんしんよのむらむ

法橋亮孫

まこと寝せめくいおのむけを

むとひしすむにむれちうん

玄徳法師

我うぬけやいんとうまふみ

ふのうめしせとういとん

権左衛門尉

乾泰よわういまちふのわうとて

くれさちのサるぬらけ

宗祐法師

仙人や泰ふむ生れとわするん

あうさうらふのるわ宗祐ふ

徳人少知

からちうこのいさむれに

似れともあぬむおぬらう

冬良政江朝長



みわひとくらくきものうけしよ  
歎の質よしるすも返るよ

法眼詔歌

信よわくしつるききものいまわい  
かこたつあふりよとくはるす

保政春

信よわくしたくそのなれねて  
とりかりしつものそよよふり

左衛門督為彦

のむあらしげのまゝのよみし

おのころられさうもあし

あはれぬ弘綱

傾きけのなかりむのいあて  
康らうとまきとのいすり人

能阿法師

小車とわけぬり門より入る

あしあてあふれまきの申よ  
飛りよのりひのあとおわん

宗祇法師

福さめよと細き小車 乃言



ふもあやらのよもあまらるるを

ふもあはし

わつれあしあはしーの小車

ふのうらとーいりーもろく舞

ふのうらとーいりーもろく舞

羽のなれらりーとあむつま

ふのうらとーいりーもろく舞

はばき

ふのうらとーいりーもろく舞

ふのうらとーいりーもろく舞

宗也法師

ふのうらとーいりーもろく舞

ふのうらとーいりーもろく舞

玄道上人

ふのうらとーいりーもろく舞

ふのうらとーいりーもろく舞

権大僧都

ふのうらとーいりーもろく舞

ふのうらとーいりーもろく舞

之品親王



さしあふあつたあしき静ん

友後定信

念うけあう袖よううぬれ

ういぬのらうたぬぬ

水製

さうにけいふいこのま

き杖とあうのうし

物むきま実白なを

時よあうふのあことたし

後よあうあうあうあう

丁橋院入念あつた

ああけいさあああのみら

けいむあしあうあうあう

宗師信師

けいあうあうあうあう

あうあうあうあうあう

信眼寺

入ぬあまあうあうあう

あうあうあうあうあう

能阿信師



家の内をふらふとせうとせうと  
たのびもせうとせうと

指大信忍の教

あまのちげきとをたかきとせうとせうと  
せうとせうとせうとせうと

道元法師

ありまたあまのちげきとせうとせうと  
あまのちげきとせうとせうと

指大信忍の教

あまのちげきとせうとせうと

あまのちげきとせうとせうと

実白なると

あまのちげきとせうとせうと

ち改るは

あまのちげきとせうとせうと

御教

あまのちげきとせうとせうと



位一位雅切

りあ人方おツクみきり袖又て  
よれた目とやえりひそくあおじ

松石胸を實際

くふりりしくうふこのとの  
しら聖のあううらうて句

宗祐法師

から親よ馬場の人かみ取上て  
そのううくあはるなり喜杖

音信法師

唐人れ西親とまうり年こと  
うことともあうぬうもれ中居

法眼寺歌

飛々スー名よしそ詩のま古え  
くく大もスくぬるやれさけし

宗祇法師

らよすむし人のあよ今みあ  
洞かさ若のことりようあは

智道法師

うとゆらうあから人かあれ



をぬきこゝろにけりまほしとてわく

宗叔法師

れつろすりきれもろり

こころやういみちのつらさ

法眼老成

うれそけうのまききまはやろ

うきよあまこころのやろ

宗叔法師

株わけよ時ごとくは博士あて

朝もともけりてわらわぬ

法眼老成

かろくふろくもわぬとてわし

すろくはまともかきぬらん

お大信の増軍

武士のその名よろり命下りて

こころ好まぬものあのみち

宗叔法師

きりこめれぬりれまほしとて

あまよすろくこころよまほしと

法眼老成



あつれども松すまじくを固まれ

菟原経久

ありありとふいりの梅の花  
らぬふりてなまをなれり

宗元法師

世古ハ夫らなれぬもあけは  
しむる月よ光りくんと

宗祐法師

あつれども松すまじくを固まれ

あつれども松すまじくを固まれ

あつれども松すまじくを固まれ

宗元法師

あつれども松すまじくを固まれ

宗元法師

あつれども松すまじくを固まれ

宗元法師



おのころのときかゝるかはりめて  
うゝ〜〜〜〜〜よ〜〜〜  
三よお歌を

まのつりねよ又秋ゆふくれ  
あつらひや〜〜〜  
後三葉入るおなを長

と〜ゆまのころとあ〜とよまのむえ  
心入る月を細ねらちあり

秋のけし

若さう〜秋のころをぬねん

かろ〜と〜わがき〜う〜  
おなを長に実

む〜み〜月をわ〜ぬ〜と〜  
ま〜い〜う〜〜秋〜と〜う〜つ

宗元法師

若ぬり〜と〜〜月をね〜  
く〜あ〜す〜あ〜ち〜月  
おちぬを歌を

み〜あ〜か〜の〜と〜ぬ〜  
さ〜あ〜る〜な〜い〜と〜ぬ〜



智宗法師

人のあはれをききまはるるを  
用ゆるふるねらのあまひを

檀越僧師の教

あはれにたゞありては  
あまひよりいふれもあまひ

檀越僧師の目

あはれにまこととあまひを  
あまひにまこととあまひを

新撰卷双波集卷第十六

雜連芳口

文明十六年閏十一月廿九日

裏あて百納連のあまひ

あまひをいふるあまひを

檀越僧師の宣流

あまひをいふるあまひを  
あまひをいふるあまひを

法眼寺

あまひをいふるあまひを



夏ももねりかきそいんつめ

夏後法師

世のよめくそえぬいめ  
りれねり神のみりるま

宗伴法師

かみくよりせしゆらぬふ  
こふいんさりしむはる回

智應法師

りぬつてもわれいりこたせよ念  
つるりきようこのこすな

夏原盛

くよらゆきつりともいせむ  
つらもめとねとめぬせの中

檀大信教

くれまけとられやみんちん  
らふふのいほ念のさのいん

前実白

はなふらぶとめとらひん  
かひもつりつうし福のま

後一位留子



しつへいあまのついでにちりあまよ  
はつふししんくしあまの神あま  
はつあま  
はつあま

荻原力續

いよめついでにちりあまよ  
しんの信をよそへあまのあま  
あまのあま  
あまのあま

荻原俊成

あまのあま  
あまのあま  
あまのあま  
あまのあま

はつあま

あまのあま  
あまのあま  
あまのあま  
あまのあま

はつあま

あまのあま  
あまのあま  
あまのあま  
あまのあま







あはれなる御さへり 若きうらたれま  
よきうらたれま 山月乃と念

檀越信の教

後と云ま里少や若や物さん  
又まうけ 初音れはの時る

ふん人あはれ

目とまよすまはらうらとまは  
うらたれおきうら月を物さる

宗師は師

ゆめさうら 時のあはれあはれ

あはれの時をさつてす物

二部は親王竟胤

あはれやあはれ 若きうらたれま  
初音れはの時る

沖敷

あはれなる御さへり 若きうらたれま  
よきうらたれま 山月乃と念

ちぬちた

あはれなる御さへり 若きうらたれま  
よきうらたれま 山月乃と念



孝親の教訓

はりのとほりいしりすの徳  
かろねうもせうりふんあがり

宗師は師

父子りあう人の年よりむいて、  
よの良徳さし送りんまじ

徳阿は師

そのうねしそ人のせれ中  
かうれふたうあふりもせねよ

おち居るは興

うきあつとらな老いもにうり  
ねりとしおほしねあはまは

前中納言推康

いそらしらうくあうはりる  
あつうあつれあをあかん

あく良政は師下

あつうあつあはあのうさうあて  
あつしうあをわあつあつあ

松本柳屋の隆

うきとあつふあつあうら







福つるやふりたあひいよあわらん  
とんば山鳥れあせんしあ  
い川まてりつあひまきんよあはま  
玄清法師

を乃まてりのいあしあ  
あはあもあをよあよあ  
十福院念ふあひあ

あひいああああああああああああ  
きしぬああああああああああああ  
後人ああ

ああああああああああああああああ  
ああああああああああああああああ  
平右衛門

ああああああああああああああああ  
ああああああああああああああああ  
智徳法師

ああああああああああああああああ  
ああああああああああああああああ  
宗徳法師

ああああああああああああああああ



うま世の中いさしあつた

権左衛門尉

らぬをむせぬもるたの  
今めしとやひららんおめい

源次郎

を乃と急登のあつた  
いまさし何とむけく御う

後三位義敏

一とひの誰もむその森の  
神ようたつたおめい

入道おちる

まじおれやとろくつり  
春ふわけよと年色や

乃元侍

まじおれよと老い  
涙のほそよと月乃と急

後一位教忠

むらあまも中へ  
ひの突つたわら

前大信義







よみ人あつた

わらわはなまのわらわのわらわのわらわ

まよひてぬき新まらつたわら

打ち細を費隆

わらわのわらわとわらわのわらわとわらわ

わらわのわらわとわらわのわらわとわらわ

冬後春後

又れ雲よりわらわとわらわとわらわ

の裏わらわとわらわの集のわらわとわらわ

わらわとわらわとわらわとわらわ

まよひてぬき新まらつたわら

十備院入るおのわら

吳竹の橋わらわとわらわのわらわとわらわ

せとわらわとわらわのわらわとわらわ

枝大他を實際

わらわとわらわとわらわとわらわ

わらわとわらわとわらわとわらわ

冬後春後

わらわとわらわとわらわとわらわ

わらわとわらわとわらわとわらわ



宗祇法師

せめておにんてしつゝおん  
つねつげよりーのこり

忠澄法師

くよのうきと秋や如ねん  
せちのあくあさるのせは

宗長法師

ふふはよのじものあめ  
わきよ宿り分つれれ月

友原修成

あましくうねるのしんか  
おひらくつゝさうらう

友原忠澄

あつらふれしむらあま  
かたつてくそまらるぬれ

玄澄法師

おとろあつあまのしんか  
いゝくされみらなるる

権左衛門

いゝえぬのらりあま



福をめですのあまうおとくわけぬか

津家

あはれしやうちひりつてはまをてはま  
あはれしやうちひりつてはまをてはま

三浦親王

うに命しそかまきりあつたね  
あはれしやうちひりつてはまをてはま

おんちん

かけりあつたね  
あはれしやうちひりつてはまをてはま

おんちん

あはれしやうちひりつてはまをてはま  
あはれしやうちひりつてはまをてはま

おんちん

あはれしやうちひりつてはまをてはま  
あはれしやうちひりつてはまをてはま

おんちん

あはれしやうちひりつてはまをてはま  
あはれしやうちひりつてはまをてはま

おんちん



もうた命のりしきうし

あれより産れ結方相いし

は眼きん

何方もうし海そく清人其

檀のむれあはれりあな忍く

宗祇法師

あしこのあしよも海うりくさ

新撰表紙集巻第十七

新しき五

ほ政え十句れきあし物中に

かりよしあし人のゆくすゑ

左馬侍為廣

うり世に此の言ふるりて

久學のあしつるりて

智高法師

人れ世はくあいのうたえ

あつりあしきりあなあて



法服考

らとせし髪と振りよせの中  
つらくもけりもけりも  
法服考

うたせの髪は時と

らとせし髪と振りよせの中

道元法師

うたせの髪は時と  
らとせし髪と振りよせの中

法服考

我が身はすめりていふもきき  
らとせし髪と振りよせの中

友原正隆

水やいはいふ人かきせり

母もかきいぬ法の中

法服考

罪やうやせはわたりぬる  
法の中

宗物法師

くみよしとらてり  
法の中







つらきぬせし誰かへん  
あしおやうまふらん

友原漢道

あまやいんしん  
わりのあし

宗長法師

すもろしん  
あまやいん

法眼玄呪

せいきりふくめ

あまやいん

法下初師

あまやいん  
あまやいん

紀則宗

あまやいん  
あまやいん

宗師法師

あまやいん  
あまやいん



柱石の書

うらみしるま世中いすまはれ  
ふれはまして

後世家流の書

わらわちあしあし世の中  
まはれいふんあてかたは  
うらみくももうたの  
人をしるまふらあはれん  
いされあひあひすまは世中  
文明十三年三月廿百約の書

世中人のまをてあはれあはれん

三品書

かきりあつあそあはれあはれん  
くうあしあはれあはれん

慈照院の書

玉のそけいあはれあはれん  
あはれあはれんあはれん

後世家流の書

月はあまうた世はあはれあはれん  
あはれあはれんあはれん



左邊の巻

昔は人をばやうりやせ  
いふしやわすめりこの世  
あはれぬ江の川

うたはしりやわすめりこの世  
あはれぬ江の川  
あはれぬ江の川  
あはれぬ江の川

わが世はまはるき世の中  
うたはしりやわすめりこの世  
あはれぬ江の川  
あはれぬ江の川

あはれぬ江の川  
あはれぬ江の川  
あはれぬ江の川  
あはれぬ江の川

あはれぬ江の川  
あはれぬ江の川  
あはれぬ江の川  
あはれぬ江の川

あはれぬ江の川  
あはれぬ江の川  
あはれぬ江の川  
あはれぬ江の川

あはれぬ江の川  
あはれぬ江の川  
あはれぬ江の川  
あはれぬ江の川



あやうしたおと命りとは志ん

入た親をな水

ほのせとおとそくや送るん

あつまーよのこみしすきかり

多るらぬぬおれ

のら乃せとこくまにそ徳て

おりーとはるぬくのまほひ

宗物法師

あるあよたう後せしあつあは

らすくれらあつあつまーれた

よみかへあつと

ほせのまもはとれとうおりあん

うらなやまよりん徳のりみら

日影法師

ちろくせよあせまての秋花月

中乃ちあふらうしりてあや

法橋直哉

うたせあも山あしつうぬま乃袖

備つしあやせと持ぬあうき

あち袖を教者







式部卿之款

海よりまはらうくの山とけし  
ほせはなほみらしそなれ

長一位家子

たうらそめれもはしるけし

夏のうらめい何とくしん

法下る意

位をうつこの廿らゝえそとらま

うきふたふらあせうしむるい

家長法師

いと人たぐり一聖のわくはまきせう

く福の男そとははうし行かん

右白法師

いといふらとくむ乃せ中

ふよりまうらなはらうくさじ

法下妙悟

案人いふらとくむ乃せ中

月よ雲切よ嵐のそははらう

法下の教

いとよ物ともはらうせ中







この方ばあれあられすくは  
とほ山とりのあわうなりまよ  
な三葉入るあなを

我らさうく世はすて何ら  
わうさめふえりとうやじ業は  
あはれ政私物

まそはあつたうね  
らうもあつたきうたあ

はる春温

後へ名あうすれぬ世はあ

字もは所

らとはとくああはるもあつた  
あやめくうねやんうあ

まは松は所

あくのほくさつりてあつた  
あのみらるあ

は眼考

うまゆらうあうあう  
あひらうあひらう

あひらうあひらうあひらう



の裏めて作りし和漢道長の中  
可成りうけの行くらふけ

後中納言通世

わつまりもんよ志のひし世と  
うれゆつよこそけけしじのり地

後大納言宣胤

すつまとも於わとまて世とゆえ  
山とけしりもかさんともせん

字納言

うつくあしれふくらもきとすそ

あなをん

すてしせみかしくぬ月かえるし  
人にとひさぬくれうの心

後思出院由敷

拵しよりこれ世のあめ方とあり

交台の月うねりけよら

前大納言興

すつろきよ秋とつららね旧也  
初うけを便よすあふのけ

後大納言宣胤







或る邦に新王

ツルハツシマのハチラウニ月日あり  
あはらうしんそと成りし洞也  
ちぬちた

シラハヌミとふとのりた  
文明十三年四月十三日の夜  
百約進あり

あまのりもんやあやえ  
者相法師

しーりもりもりもりもりもり

あつらよんよんよんよん地

係松法師

わつりーちぬのよんよんよん  
しーりもりもりもりもり

係松法師

しーりもりもりもりもりもり  
やとほもりもりもりもり

係松法師

あまのりもりもりもりもり  
しーりもりもりもりもり



一先法師

うたのりもひらきしるれあかきに  
おりのりそあつせもおのりん  
清趣法師

あのもろよきれしうらぬ者あは

聰句連奇

後花園院位みたらまけり時  
門裏あて物し和漢並りの中  
吟詩欲海裏

妙花寺末実白屋長

新ふうれ去のま向れぬさるわ  
ま程驢既高

権太柳之実隆

めよけしむらあふらこえて  
消百雪如埃



沖裂

らる花の人のゆきまに思ふて  
風露濕衣裳

園白右大臣

花のまじりてや神も白く  
院寂好園暮

前左大臣

よのえれく山りりくも水も白く  
心夏乱如麻

前左大臣

水鏡下り河原とくしく風よ

山房避暑塵

中原師房朝臣

志河のよりのあはれをて

泉殿忘天雨

宗祇法師

雲は朝も霞すく風もや  
燈残孤窓静

法橋至戒

あしとくくあはれりりりりりり



前冥白世東家ゆへゆし和儀と  
哀猿断幾腸

荻原嗣廣

みづめつらふとくしつて  
概概檐松影暗

三品親王

やとほ神くしに古くは月  
鶴孤因在院

赤中幼之縁光

かけし正月の音乃古る

城礎曉断腸

前冥白世東

きりしやうし月の山里秋さし  
鼓霜報楚砧

右邊り替る廣

うづれのきりしやうし月  
山深暮笛疎

後花園院御製

雲うらむしきりしやうし月  
金鳥射花巖



御製

ようこやちやあつらひりくまひん  
林深聴夜鳥

りの新すくろたや明ぬん  
逐年情易場

深草右大臣

あまのりやあまのりしむ  
梅報不鈴驛

後三位義敏

よりゆくも花の香うす  
鶏唱白残更

お后お后

実の戸と明りのく  
夢と鹿為隣

十徳院入道お后

うらたしとれよつげ  
筆道傳燈耕

お大納言雅親

うらたしとれよつげ  
春と旅程移



三不親王

花よ福しゆく長もいづる  
莫嘆沈者字

校中御言宣親

後くみみ新ふくむのさそつれて  
若令石碑摩

御製

のころあのおれえん終るらるん  
卓埋顔卷達

後花園院御製

あけうきんふりすく人の世に信て  
文明十三年四月に裏せくゆ  
和漢と句れ中よ常学外陶  
懶

省相法所

口うあうたせはららるん



新撰亮以波集卷第十八

神祇連歌

神のやーろよさるも松根とまら

久良政弘朝臣

かげさるみかしめらめらるん

友とみまのねもかり

前関白兼

長白じくらの交丹の神さるん

少好社よまらせもいあり百

約も平了也

この愛とり交とつてもし

御歌

この神のろり少好社文のし

浪とれとけもこれ秋川端

友原基叔朝臣

わさ川神らるいの海は底も母に

うき男れとさもあつ行いん

祝部文弘

世ふららくいの神は神さけつ

祀まの白の丹て乃中る



は服き取

きりきりしり 長白まうり 武家の使  
かきく梅とるをんうけさ

宗祇法師

ふん水けりもくろいぬ月そ  
移りいみちつてわろく中人

杖ちゆて教具

神とらふもこよみの枯村月とて  
袖ゆきこすりふめりよ敷うえ

宗伴法師

男の神のまうりふくまこして  
い草ふくまはわんかうけさ

宗徳法師

山落より乃れいふふ志の枝は  
みゆきりくせうろ志のうけ

元胤法師

かき湯やねめも神乃神となく  
契こめきく神ろいひとく

法橋通載

若湯のねりせう地を八橋山



ね回れらるうらぶらひり

宗師は師

ちちと人の流れ交るゆゑに

容れりていづく行乃一り

故原終久

白木綿とよやけすの河原

らうのふよとほらふと

道真は師

ゆふろくぬ祓のちる一れ松の門

わたりに御と乘まはるる

青柏は師

祓のちるれとすじり

あじりたるゆりおる乃ある

宗師は師

ちちと人の流れ交るゆゑに

容れりていづく行乃一り

故原終久

白木綿とよやけすの河原

らうのふよとほらふと

道真は師



くはせのらは神の神の神  
て世の心かやまといふ  
わの國の人とや神といふ  
よるの心とていふ  
傍らに物

神は心らうのけせあつて  
たすくうらむとて  
毎に良政は  
ありとてしきくぬの神の  
頼るるこそわみりけ

行大信の教

釋教連歎

はふふの神やあつて  
らふらふのつは  
世にわははれたる  
らるるの心とて  
前大信に滿意  
あつてしきくぬの神の



こゝとせまひりて中なる一さ

御書

山依らるるの由山は位あるて  
よのひいんせまひりひあし  
るを山崎月れすめれあり  
るもしよのぬおれはの柳

後成忠と念家書あふ下

勢れ山原のそれとれとひく  
のりりもくるしとさしたる寺

宗御は序

誰りあつちりの越方とれと人  
とらんとあつちのちののみら

増長三位教江

仏よりとれまよと  
うくつちんよとと方持のそ

は橋五我

かよけいなりいせよはくそし  
ありまおとちよす心いまはり

は下教

没とらなつすははれひははし



うらそりりしすた  
よみんちん

いふよむいりつもさまうねめて  
果の戸わうあまあがらうそ

他何上人

いしあしあうんたきしそはなれ  
いしんり月ううんりーる

宗物法師

あふのそ祈うまうたむの秋  
うすくやわいし神のううり者

はたのり

あむみきじみやはたのり  
又うーてそはいとねいそふ

あはぬ弘智

は神ハかうたそくわのすん  
侍いそしきひくわはいたなかり

おんちん

水のまよふたそそくしそ  
りつしそしそろちそうたかり  
とりよるよは神あのみん



宗祇法師

はたあきらつて神のうりひく  
るあわいらをじきーのゑ  
と云白みねるーのゑ

青栢法師

くよよかりりーの井をけり水  
志つくぬまおろけけりりして

宗叔法師

はの水あるまきかろいんこきて  
おろよむすふあれんりりまき

傳心法師

うけてあげあわあまようい  
うういのがはあのがあて  
二品は親王貴胤

何とわられこあーとらんを  
さのみらとはあまやめん  
前大御之教考

じまれまてけぬうけさあおま  
あまのこらとせぬうけん  
は眼まね



うげんたもよと後よりしん  
わらわはゆしゆもわ物よとた

は服征承

今うたのこらうたせの念み  
人のあらわくうらつてい

友原文躬

くわくうわのさうひみせらん  
つらまてう振れやよのうら

友原徳ら

めくうもそそよげせのうら

つらうたまのうとく

うらうらうら

あゝぬ人そあ

宗徳法師

我とるら山の子れ月の梅を

うらうらうら

智徳法師

うらよんそこの月

うらうらうら

源政長朝臣



つらくはちのらきくはあやし  
あまのじ佛もえあしをわれ  
神祇伯忠最

あまのきくはけのあや  
かきうのけのすうるあき  
行大信如の教

あまのきくはけのあや  
あまのきくはけのあや  
あまのきくはけのあや

宗師法師

あまのきくはけのあや

あまのきくはけのあや

あまのきくはけのあや

あまのきくはけのあや

あまのきくはけのあや

は眼寺

あまのきくはけのあや

あまのきくはけのあや

ち花の徳

あまのきくはけのあや

あまのきくはけのあや







うゑんりぬれおくたふち

智慮法師

檜つじ界もはまのたつと

かのふりまきみ日しをいぬれ

宗物法師

をらの夕れおらぬ寺もくしく

いふつれおらぬ寺もくしく

よるしんちん

言わりの音方も寝たりありとち

その薬も行徳とひの志しひ

宣光法師

ねぶらこきつれあり寺もくしく

らききつても人のとくめや音

は眼寺

ふれ八月すむきつれあり寺



新撰卷以波集卷第九

教勺上

立春のみねるふ

前もたれ

かすし日はとねくしつ去れあは

みおあきくいしくし進可志物

は服ちん

むのましくりあやうーおん

神去のあむ

有柏は所

花もきやゆーまの胡うす

行大信和の教

世はまとあすめいりあやう

原勝元物

音よりもうむやあ山もめ

身良海弘物

長うけあきうすしきさね

海取元

雪にあけうすしよきうさね

宇安祇は所



ふ乃らふふ新や名所を中らるる

柱は信濃の歌

らるるはるよ庭の落々たる是れを

入道お七ちん

香はまじりあはまわりの信濃の

三子親王

そりや竹のうけとまはせしるる

家の月次のまじり

前室白葉

せはまると梅り香りの梅はは

梅の香るよ

御製

梅はは風よこまね本はは

後三条入道お七ちん

りまふ風まらるる梅はは白ひは

少将の社よこまねしはは

善光院お七ちん

みはまの神よこまね梅はは

千貞宗朝臣

梅ははは風まらるる梅はは



先良政に胡片

むろ梅少のひかりおろくあゆま

法橋道哉

侍人下立枝やふしむ宿乃梅

深也親親臣

梅くれ露とつらつわくし

三原親王

梅く小柳とられ流し

文明十九年一月廿五日百韻集

御

梅く小柳とられ流し

長成寺念の雲の露

梅く小柳とられ流し

宗長法師

梅く小柳とられ流し

東へ下ありんた馬乃をれ

梅く小柳とられ流し

宗師法師

梅く小柳とられ流し

春の月



省柏法師

紀剛宗

月引く空反りすも乃光れ

と物風とすすめ乃月此光れ

花とよりこほは

法眼考伝

ゆゝりととけつらととれきまは

家よりとましく百約のまは

物より

春浅基徳

りしよんそよとけむのひも

花と

沖野

雲より花候つそととる

花候つそよのそりまは

三女新王

ら物とよりん物とよりん物と

よみ

梅とよきふりりやまは

る神とまにまうてとふ

奇はうまうし

校大信記



日乃由しけむ女白くつりて  
文正二年二月六日勝元朝長  
る清の秋よちもありあゆま  
るよ  
善照院の傍に政宗  
となくまじりてわむれは  
花の散るれ中よ

前大信正の題

花は時少ししむるにまよる

花は初を老通

花乃香花あはれはぬるあさり

宗元法師

ぬるはく梅女らのあはれ

は平初物

あきあはれあはれあはれ

前大細之雅親

毎こめてむ女枝るたさりて

は眼寺

花さうりおひんしあさりて

はくよりり花はあはれ

おは百額のもよあはれ



宗祇法師

あつておぼれしとてりやわりのこぼさう

宗伊法師

花さげはるのひととてはまを海より

源政春

むさうり家茂様秘法山海の

徳河法師

花さうり人を振つるまをう那

和漢連句の巻目よ

前右卿之雅親

雲ハ切りまきりる山のおけり

花の巻目れ中よ

沖智

九つすれおふしとくを花乃云

前右卿之道興の巻目れ防ぬ

百顔の巻目れ防ぬ

慈照院合宿政長

契あもて花一本のつけれ花の宛

花の巻目

友原房定卿

山やむ物よるしとする花の宛



は眼もみ

多やち海しりふのやまら 山橋

宗師法印

花よそく昔の月夜のとほれ

花よ月つたけの末はらう

目をみよき花よつたあはれ

内裏めくふのれはあはれ

後成孝公業書

かめふさやうつてしきの花

むのみるふよ

沖製

月よこく花よあはれのう

夏白右左衛門

おとくむあのかたのう

花右衛門

むいたくあのかたのう

宗師法印

花よそく昔の月夜のとほれ

智恵法師

花よそく昔の月夜のとほれ







所りるし花り多し時あきくす  
交切よあすううん肉も  
は服きん

ぬよげんむれううぬあま  
ち京燈のむんよほりし時  
百顔も新ゆ  
ふさうらうらうらうらうら  
梅風あてれ連歌よ

ちり花れ香うらうらうら  
梅風あてれ連歌よ

落花の歌句よ

多良政記

あやうらうらぬら花のらあ

花大信記

花落く小藤あうら山海り

前大信記

らうのら花をうらうら

多良政記

花らうらうらうらうら

三品記



あよふくはまゝあはらうせまはせ  
まのあはれ申す

檀子信記の歌

花よろねてくれうもまゝあは  
れ裏めて侍しむはあはれ

お周白出書

あやみよりゝ庭のつふすれ  
春のあはれよ

式部邦高親王

見ぬつめはまゝしめてはまゝ

沖養

歎きこれ八重うきほくろみきり  
山吹のゆきくは花乃らあはれ

前大信玄義軍

いあつしよまゝあはれのこと

家勲法師

まらまにまらひしよよまら  
言まのら

は平行物

花よまのらあはれあはれ



源政元

宿とるは昔やとゆらん花は子

新道法師

雲をけりるるいあやみ花の春

宗伴法師

花はくもる時春れとくれと

深父貞

をいぬあともわかさみのとるあ

花はゆきとる春

くもる時とゆきとおゆぬ三月子

沖製

かくしはく年にも言ひはせしる

更衣のきりり

後花園院沖製

うぬてふふはは切海りまかき

前大細之雅親

花はとらぬしりりや友れ雲

あふ連歌よ新樹と

もやすむ桐の糸あけり梢れ

沖製



花はあつたいふ葉とともくあつた

よみ人あつた

花の枝もあつたあつた本とあつた  
葉の枝もあつた

は眼きん

時多切もあつたあつたあつた

智彦法師

花の枝もあつたあつたあつた

祚益改

あつたあつたあつたあつたあつた

花大信忍心歌

あつたあつたあつたあつたあつた

入心親王手付

あつたあつたあつたあつたあつた

は小松院中歌

あつたあつたあつたあつたあつた

前中細之雅康

あつたあつたあつたあつたあつた

友原長信

あつたあつたあつたあつたあつた



帝徳侯爵を政を治るるれ物  
年所後名号は是なり

後一位富子

まららるる世に成う此のさうり  
春日の社のあふりし時多し

源政元

知くともおぼるるまきくや郭  
郭との名は此中なり

後大信起の教

一しよよるぬふりし郭

後大細之宮陸

まらるるえんうみそやのりま

神製

まらるるけ度も山所乃はま

入后前名を

まらるる山の本と名や郭

源高純

時多月よりのまらるる

名を

は下り物



くらねのむいさくらねのむい  
五月十日作ししなりよ

宗細法師

くらねのむいさくらねのむい

法眼法師

月がそくからくやうくくすん

あはれあはれくくくくくく

のうとわくくくくくくく

後成書とある言ふは

くらねのむいさくらねのむい

五月廿日 石橋齋為底

くらねのむいさくらねのむい

くらねのむいさくらねのむい

て作し百韻のむい

沖製

くらねのむいさくらねのむい

夏のむい

前石橋齋

くらねのむいさくらねのむい

くらねのむいさくらねのむい



松久細之丞隆

五月十日切替りて御所

お召りなす

夏方の小宮下りもめし末葉小

従一位皇子

下あよふくぬ他村よりす

智彦法師

小松おひるてしこさげり思月小

小野社みよてまうくわく日裏

千白れ進弁中み

前左大臣

松久松くわくしたてあ弁れ

大深金對院入道前雲白古政

ち白ありて百款の進弁仲よ

は眼寺取

長ももくあ月はつろもたす

河原の森白り

玄澄法師

手紙さくすれはつろぬ信然

宗祇法師



ふくろねいしつりて月夜

雲袖法師

秋風いけ袖も夜をれおすこ

法橋為成

御つりてすしつりてきれお落木

冬良政弘教

あやみぬらうほらうすり秋風

新撰源氏集卷第十

たむら

秋のうらめれたむら

冬良政

用らそあそく秋のあめき

源政重

おしつりてあそく秋のあめき

法橋為成

あまうららぬらうすり秋風

冬良政



らうも海に枯るせうぬ柳れ  
舎をよもひうけぬりしあ  
秋つよもろくしき奇よ

宗師法師

唐とつまぬとほくさる一葉

てつたれき奇よ

と致る臣

と乃川あつねのうきま

宗師法師

る何やあじとぬさあを

松本房師

初とわ七日より一のあふり

国七月参向よ

宗師法師

あふあつねと年うすりたは

秋の参向中よ

宗師法師

日くくこれあつね月まの初れ

松本法師

日くくこのつげまぬを



法橋孟哉

錦ももむやいけり〜森れは花

慈照院入道法橋孟哉

秋の形ふ花とくろまは錦も

文明十三年八月廿五日此日也

あよ 御製

秋は秋れむあやすけり花とく

あよ花の秋の句

入道法橋孟哉

花られは又つくは秋の下は

源尚純

汎もくくは花とくは秋の

智徳法師

あもくくは花とくは秋の

徳河法師

河川れは上あはくは秋の

宗徳法師

春乃木はあは秋の句

あはくは秋の句

一は秋の句



家伊は所

ふそい草くわりまてがうー秋城  
秋の暮る中よ

原政長卿

しーのきは垣ひよ夜子の籠子

家長法師

吹く風や音あも萩はる

根方信知心敬

柳らう居るひさしき川さる

入道志志大長

居るそねふ雲わら月上り那

首根法師

一しあみすしやるらう夜月

あ大袖之雅親

月そといふうまう海つれ

根方信知心敬

まひつそ月ま満るりてつれ

後如是る念の言ふあま

旁られく月立のりりて

文明三年八月十二日景徳院



平納の十句

慈照院命詔る政を臣

すみののりり月れきくそ福言もほし

御位よおりにまじりけり時八月十

み取のまじりよ

後花園院御製

月乃名もたつられりりりりり

御製

月の名れと取みほりりりり

と政ら臣

月よりいえますそこれわく名は

八月十九取あ中御之定家の

養をわめてまじりりり

家祇法師

時は又つりりりりりりりり

十み取の終りりり

法眼寺

月取よりせくのうねりりりり

宗徳法師

みやいりりりりりりりり



多良政弘朝元

月ハ秋あまはら秋のつれなき

法橋五戒

雲きりし月よりくらくら秋れ

宗伴法師

月よりらりまや月の秋れを

後人志しに

あつた月を野々風を山々

けさ句ハ九歳よりくらくら秋れを

のつらまらくく秋れをん

あつた月よあまの年と送りし

しりれもあま

校古僧初心殿

月よ慈月ふりくくあまの

朝一はひいされを吹くゆき

白河の冨あり

秋をせにくくは花のまこれ

秋のあまの

能阿法師

くまわく秋をせあまき楢子



宗敏法師

栴の葉いづと秋れ本と名に

法師寺に

庭ふくじふや菊さく雪の香

智徳法師

うりふく菊咲くあけ葉ま

禿人あつに

菊にさ物そふ井の石たすは

九月十日百韻れまふよ

御製

乃のくす菊ハ小蝶れやとりは

おろし十之葉也

高れあふあつとふ月の二葉ハ

後少和院御製

らとあふあつとつる八月七葉ハ

文明十五年九月日裏月次

の和漢のもるよ

前園白出集

ふとあつと庭よりほよあつたる

秋のあつと



三品親王

秋の多岐路を歩みしるるに

御歌

梅やこれ一葉の枝ち乃初紅葉  
夕露乃これ月ハ明り来す念  
おれ一枝とりまてしは初紅葉

慈照院入道信長

らぬより朽葉又打りた振ふ那

友原政行朝臣

山深く又あはえしぬるる水

法下行脚

七夕はよあまはしき此端の

法眼寺歌

くわぬあきまや月夜紅葉

法眼証永

秋風の指如うけりあき

法眼寺歌

うすくうた紅葉や川の村時を

智恵法師

流流ぬるれる井落て秋しき



玄室法師

時多感もかきしめてゆきりなれば

宗物法師

深のこせ月たふりのこひ時を

智彦法師

夕月や山よりたなぬのこひ時を

多良政弘朝臣

鳴鹿のこゑもみゆり時多れば

はしくよきり竹一時

宗物法師

秋のけねねのこゑもたなぬれば

九月も雪れもゆりくるる年

たなぬり

宗物法師

きりきりな秋のこゑもたなぬれば

多良政弘朝臣

雪あつたるとてくれば

雪秋たふらぬ

宗物法師

秋のけねねのこゑもたなぬれば



前大僧正義理

ふりうて枝よとくれぬ御義  
愈た乃は世のまゝれ物一  
時わ  
はまにくらうつらうま  
ある

後大僧正義

雲はまはまゝのめわりの時  
あま一はまのめうりて時  
の發句一

宗祇法師

世にうらもあつよ時ぬれ  
あま

法眼寺

あまのこもあつとあつす  
と時ぬる  
後大僧正義

西行法師

あまははのまげの時ぬれ  
法眼寺

伴乃山志くろく  
吾れありと  
此  
神正月の比乃ま  
年よ

あまの政弘



秋をまふはるのころ枯野うま

智恵法師

神無月まはれぬる方なほあふ

白川の守りあり

平孝法師

らりしころありこのころは紅雲の

みれば雲白中よ

源政宣

まじしとたぬはるぬ紅雲の

式部邦之親王

木葉らり難い父乃み種れ

沖敏

風そそぐまのりしころは紅雲の

津あ月山望みぬ宿もろ

法眼寺

あ水川をまじしき芽あふ

道元法師

流のきはるぬれれ宿も

宗祇法師

あより川まじし流の系



宗信法師

明心すよふ河舟あたまき少れ  
水無瀬あまく物しとあよ

後三乗入るあなを

あうて月あはすくれき少うま  
ゆゑえ年十一月たあひあま

沖製

月やし約わしてはらうと少  
あいのあまうり

慈照院を結成す

ねさとめよあまの玉乃小藤原

る政を臣

智もまてハまひととつてあうま

前住名臣矣

山や智うつね白つりてまこれ

板屋知つ敷

あつてれうま智うりけりま

秋もまなあまはあまれつれ

板大信知見

胡戸あけてまらうまれつり



宗物法師

紅葉をぬ秋もうらうら吉れに

うらうらより物一時非は月よ

宗長法師

初やいりみられ庭よらねの音

十月のはき音のありたりし

時のまきあり

後智恵院念持白雲下

うらうらなうす紅の庭葉うら

音のありあり

御製

鳥れあみ秋もこの音乃葉

たひのふとつりれと羽の音

音はえんはれまむをれり

三ノ歌王

あもあしぬ花こそ音乃指り

少燈社のも新よ音は

善慶院法政大臣

心よりしけ野は音れあし成

の裏めて百韻れ和漢連るのみ



行大御之孝通

朔きよめ言にまうすり御りれ

その名ありけ申す

源勝元朝臣

花とらうハ言のあやふ分風もる

は橋五哉

ふしそ秋いりハ冬月夜れ

後三位義敏

月うけハ言よりうる此少うる

智彦法師

月言乃多よりれりあしうる

宗御法師

あう朝ととて山りハ言のね

友京房定朝臣

孝れ言うりこあしうる

多良政弘朝臣

言しあ言うりまぬ山れすうる

青柏法師

梅うきよとるすりやハ言れ孝

法眼寺



うすきみ結けり香たりのれ  
宗伴法師

天はうてゆりくぬ香たりのれ  
早梅

そきくや一重こゝろ乃梅の花  
法眼寺歌

りくや香一花さけり香乃梅  
多良政法師

春まゝそひくくハ梅れこよき  
前賢白集

親香寺道安法師

梅そきくくハ梅れこよき  
前賢白集

年れ中よきハ梅れこよき  
兼香ふのみか白集

世をきくハ梅れこよき  
左近右衛門

あき香けいりくよきハ梅れこよき  
法下初叶

前大僧正増運



河一めり成去る千後此年此着

去上

百十二句

去下

百三

夏

七十三

秋上

百廿六

秋下

百廿二

冬

百六

賀哀傷

六十六

哀上

百十

哀中

百三十三

哀下

百廿一

旅上

八十三

旅下

七十二

雜一

百廿九

雜二

九十三

雜三

九十一

雜四

八十四

雜五

百七十

神祇教

百十九

祭句

百廿八

祭句下

百廿三



上卷 千六十三

下卷 九百九十

以別 千五十一

以上 二千六十三句

新撰 菟玖波集 作者部類

次第不同

御製

百九句

後小松院 御製 四句

後花園院 御製 二十

後崇光院 御製 六

親王

三品親王

五十五

伏見殿

式部卿 邦高親王

九十



桃井宮

二品法親王堯胤 五

青蓮院宮

入道親王尊傳 五

勸修寺宮

常信法親王 五

仁和寺宮

入道親王道永 七

妙法院宮

覺胤法親王 五

故伏見殿

式部卿貞常親王 八

大臣

近衛殿

前關白 七六

近衛殿前關白御息

關白右大臣 七二

一條殿

大政大臣 七六

西園寺殿

前右大臣 七九

法金寺殿

前左大臣 實 十六

龜翔院殿

入道前右大臣 五十

二條殿如法壽院御息

内大臣 三

故一條殿 普光院贈太政大臣

後成恩寺入道前關白太政大臣 七四

東山殿

慈照院殿入道贈太政大臣 七六

一條殿

大染金剛院入道前關白太政大臣 二

近衛殿

後知足院入道關白太政大臣 二

後成恩寺殿御息

妙華寺關白前左大臣 七



大深金剛院御息

如法壽院前関白九大臣

西園寺殿

觀音寺入道前大政大臣

東小殿御息

常徳院贈太政大臣

傳法輪殿

後三條入道前九大臣

大炊御門殿

深草右大臣

三條西殿又

後稱各院入道前内大臣

中院殿

十輪院入道前内大臣

庭田殿

蒼玉院入道贈内大臣

納言已下 至殿上四位五位

甘露寺

前大納言親長 六

勸修寺

前大納言教秀 六

中御門

權大納言宣胤 十

松木

權大納言宗總 三

隆盛子

權大納言隆量 一

久我殿

權大納言豐通 六

西殿

權大納言實隆 三

西園寺殿御息

權大納言公藤 三

傳法輪院御息

權大納言實香 二

故四條

從一位隆盛

葉室

從一位教忠

一 十 二 六 九 三 二 二



庭田蒼玉院息

從一位雅行 四

儀國司

權大納言教具 二

權大納言公澄 一

栢木

前大納言雅親 二十

還

前大納言季春 二

梅佳山

權大納言高濤 五

高倉

前中納言永純 一

勸修寺

大藏卿經茂 六

令泉持為息

民部卿政為

令泉為息

左衛門督為廣 五

造野井

兵部卿教國 三

武者小路

前中納言緣光 四

還

右衛門督季經 二

後小路

梅察使俊量 四

飛鳥井

前中納言雅康 十一

勸修寺

權中納言政顯 一

勸修寺

權中納言經卿 二

中院十梅院息

權中納言通世 三

中山

權中納言直親 九

權中納言言國 三

甘露寺親長息

權中納言元長 二

師小路

參議基綱 十六

田向

參議重治 七

洞院

左近中將公連 二

園宰相

神祇伯忠昌 六

參議基富 三

武衛

從三位義敏 七



故羊井

從二位明茂

二

西洞院

參議時顯

二

大内左京左史

贈從三位教弘

七

庭田

源重經朝臣

二

所

正三位顯卿

一

丹波盛長卿息

從三位重長

一

伊勢國司

源政卿朝臣

五

持明院

藤原基春朝臣

二

唐橋

菅原在教朝臣

二

坊城

菅原和長朝臣

一

北多井

藤原雅俊朝臣

五

持明院

藤原基教朝臣

二

伊勢國司

源茂親朝臣

二

故五辻

源泰仲朝臣

三

藤井

藤原嗣廣

一

五辻

菅原為字

地下

四位已下雜

々

大外記

中原師富朝臣

二

大内左京左史

多々良政弘朝臣

七十五

二階堂

藤原政行朝臣

五

故大内修理左史

多々良持世朝臣

六

龜山左生門督

源政長朝臣

四

富士路

藤原俊通朝臣

一

伊勢守

平貞宗朝臣

一

宇龜安寺

源勝元朝臣

二

上林相模守

藤原房定朝臣

二



右京兆  
源政元

三

奉玄明智中務少輔

源政宣

七

小田豐前守

源持知

五

細川内波泊郡

源盛卿

五

京極内少倉將監

源實澄

四

藤原五郎

源敏系世

三

赤松内峯平田

源友興

十一

細川内芥川小田郡

平景盛

一

近衛殿侍進藤

藤原長泰

三

細川内池田若狭守

藤原正種

二

同新元末門尉

藤原正存

二

太内内右内左内

藤原護通

三

太内内司友右衛門尉

藤原政貞

二

上杉内市川和泉守

藤原憲輔

二

藤原忠綱

一

肥後国相良右衛門尉

藤原為續

五

奉玄陽川每唐守

源政春

五

關東新田后部大輔

源尚純

九

細川内

源元敏

二

細川内能勢源光衛門

源賴則

二

關東郡井

源宣胤

三

奥羽南部

源經行

二

關東江戶伊豫守

平助良

一

典廐内尾林

平正賴

二

典廐内池田常力充

藤原正能

二

同兵庫助

藤原正盛

四

門下左守

藤原能秀

五

富山内遊佐源五郎

藤原長衛

四

細川内伊丹兵庫

藤原九親

四

伊勢国司内朴木列部兼

藤原文躬

三

細川内伊達

藤原景豊

二

土岐内斎友源正忠

藤原利綱

三



細川内細見何内守

紀光信

五

祝部友弘

二

大江重廣

二

小野業繁

二

荒木田守武

一

拍久時

一

源秀満

三

平章棟

三

赤松内浦上奏作守

紀則宗

三

惟宗氏弘

三

大中臣時就

一

丹治氏泰

二

荒木田守晨

一

平長恒

二

藤原之親

一

富内遊佐加賀

藤原長滋

二

藤原壽正

一

藤原種久

二

宮道親度

一

神益政

三

早忠説

一

女房

従一位富子

十四勺

前左大臣女

細川内他田氏了兼壽正守

藤原網正

二

藤原光傳

二

藤原臨茂

五

宮道親元

三

小野國繁

三

西園寺女



長橋  
勾當内侍 三

僧

聖護院

前大僧正道與 八

定法寺

僧正公助 三

青蓮院出世

權僧正祐濟 一

故聖護院

前大僧正滿意 二

同實相院

前大僧正增運 六

法印公意 二

慈行

他阿上人 四

故佛陀寺

邦諫上人 一

真光院

法印尊海 一

豊原大徳院

法印心教 三

權大僧都實圓 一

横川石一音院

權律師真宗 二

青蓮院

前大僧正尊應

妙蓮寺

權僧正日應 三

實相院

前大僧正義運 八

竹内新門主

大僧都慈運 三

靈山

玄道上人 一

法印玄律 二

天王寺

權大僧都秀頼 三

古市

權律師澄胤 三



故青蓮院官

法印 泰温

一

持持坊

法印 行助

廿四

本能寺

權大僧都日與

十一

養源園

法眼 紹永

十

同

法眼 泰延

一

法眼 快勝

一

青蓮院 子利

法橋 堯弥

四

六角堂法師

法眼 專煩

百八

久我夢庵

肖栢法師

廿一

慈雲院

道空法師

十五

奉公明智

玄宣法師

十五

種上卷 自持齋 上云

宗祇法師

五十九

持象

覺阿法師

二

不劫光院僧

臨昭法師

二

細川友附 波女内河由

玄清法師

七

出徒

法印 宗花

一

木住院

權大僧都心敬

三

持是院

法印 妙椿

二

青蓮院坊官

法眼 泰本

一

同

法眼 泰謀

五

宗近

法橋 兼載

五

專煩子

法橋 專存

五

北野 松梅院

法眼 禪豫

三

日野 東洞院

宗煩法師

三

上杉 溪路

玄澄法師

六

十觀長 奧宿禰

壽宮法師

七

豐原 西方院

清起法師

三

持象

其阿法師

三

法華眾 本國寺僧

印孝法師

九

奉公 東下野寺

素純法師

一



上杉田守儀養讓能登守  
道盛法師

二

聖道  
專海法師

一

宗祇同宿  
宗長法師

廿八

正根法師

二

上杉内長尾下孫守  
宗證法師

二

大禪法師

二

宗益法師

二

奉公滿生刑中奉  
宗源法師

一

慶祐法師

一

一色内牧師  
智問法師

五

武田内寺井  
宗般法師

十二

宗祇同宿  
古白法師

一

上杉内長尾三河守  
宗功法師

三

宗祇同宿  
宗仲法師

一

存胤法師

二

為之内桐良遠江守  
正任法師

三

讚列内東条若狹守  
宗竺法師

二

淨五象  
宣光法師

二

上杉内白司丸光陽門尉  
宗忍法師

三

桂少坊  
惠俊法師

三

故武田光祿

宗勳法師

二

山卷内  
宗劬法師

百

伊藤寺内  
忍誓法師

十二

杉原伊賀守  
宗伊法師

六

伊藤寺内  
智溢法師

十六

山方同明  
能阿法師

十三

能阿子  
藝阿法師

二

時象  
一覺法師

二

上杉内吉備備中守  
道真法師

二

細川内福常日向守  
宗雄法師

二



上皇京養廉守

宗元法師

四

岩内金澤下野守

源意法師

一

讀人不知衆

青蓮院院

愛益丸

一

丹波任人近友

九歳童

一

上皇御下者泉列塔任

宗友

七

故鈴木

橘長敏

五

奥列任人

慶卜法師

二

越後任人

宗紹法師

二

伊豫国司内奉水

日晟法師

四

祥盛法師

一

森彦九衛門尉

藤原正時

一

丹波三郎

滋久

一

山本祐園

正孝法師

一

慶瑞庵

實中法師

二

越中任人

宗悦法師

一

弟載同宿

東怡法師

一

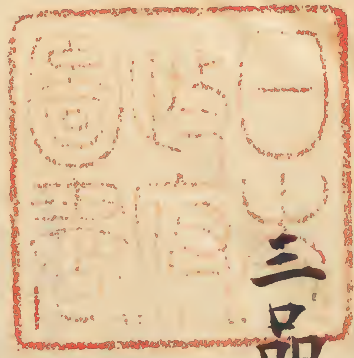
通秀

肖栢ノ兄



御製

三品親王



心敬 六

宗祇 三

肖栢 一

兼載 一

一

一

宗劬 六

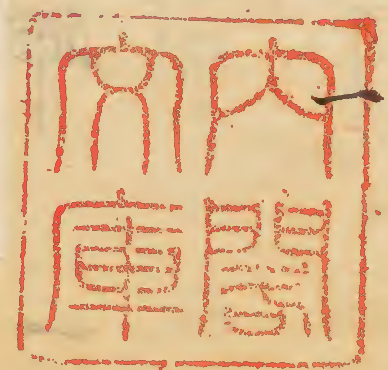
專順 二

宗長 一

六

二

一



紙數百五拾八枚



